

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-18660

(43) 公開日 平成11年(1999) 1月26日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>  
A 0 1 K 97/24

識別記号

F I  
A 0 1 K 97/24

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平9-179548

(22) 出願日 平成9年(1997) 7月4日

(71) 出願人 597095359

株式会社斎田鉄工所  
静岡県焼津市栄町3丁目6番9号

(72) 発明者 大根田 訓之

静岡県焼津市保福島753-2

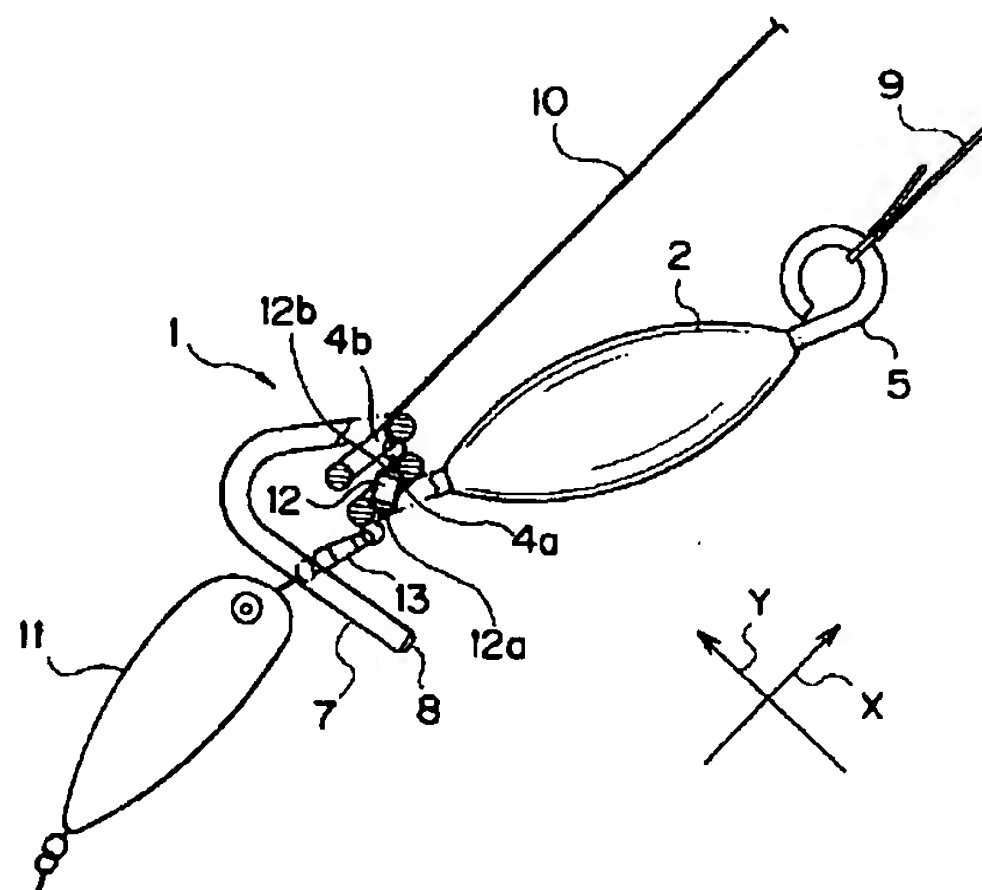
(74) 代理人 弁理士 高月 猛

(54) 【発明の名称】 ルアー回収具

(57) 【要約】

【課題】 簡易な構造としながらも回収するルアーサイズによる制約を受けず、確実にルアーを回収できるルアー回収具の提供。

【解決手段】 本発明のルアー回収具1は、捕獲部4が係合対象となるヨリモドシ等よりも短く形成され、そして連結部5に取り付けた回収糸9が引っ張られた際に錘部2を介して働くモーメントにより該捕獲部4にひねりが生じ、このひねりによりヨリモドシ等と係合する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 錘り部と、この錘部に回収糸を連結するための連結部と、同様に錘部に接続された筒状の捕獲部とを有し、前記捕獲部に挿通した釣糸に沿って滑り落ちて釣糸とルアーとの接続に介在する接続部材に到達し、回収糸を引っ張ることにより当該接続部材に係合しこの係合状態を利用してルアーを回収するようになっているルアー回収具であって、

前記捕獲部は接続部材よりも短く形成され、そして回収糸が引っ張られた際に錘部を介して働くモーメントにより捕獲部にひねりが生じ、このひねりにより接続部材に係合するようになっているルアー回収具。

【請求項2】 捕獲部の先にルアーと当接することで捕獲部の内部への接続部材の位置決め状態を助けるストッパーを備える請求項1に記載の回収具。

【請求項3】 捕獲部をコイルで形成した請求項1又は2に記載の回収具。

【請求項4】 捕獲部の中心軸の向きが錘部の鉛直軸に対し交差するようにしてある請求項1から3の何れか1項に記載の回収具。

【請求項5】 錘部に挿通させた針金の一端を連結部とし、他端をコイルにして捕獲部とした請求項1から4の何れか1項に記載の回収具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、釣り具に関し、特に根掛かりしたルアーを回収するための回収具に関する。

## 【0002】

【発明の背景】水中で木や石などに根掛かりしたルアーを回収するための器具としては、例えば従来次のようなタイプのルアー回収具が知られている。一つには、ルアーの針を回収具に係合させてルアーを回収するタイプである。その一例としては、実開昭58-6481号公報に開示するタイプの回収具がある。この回収具は、全体をリング状とし、その一部に釣糸を通すための開閉機構を備えるものである。これによれば、開閉部を開いて釣糸に通した回収具をルアーに到達させ、回収糸を引っ張ることによってルアーの針をこれに係合させ、ルアーを回収するものである。

【0003】また、他の一つのタイプとしては、特開平7-327570号公報に開示するタイプの回収具があり、釣糸とルアーの接続に介在する接続部材に係合するものである。これによれば、釣糸を挿通した回収具をルアーに到達させて、接続部材であるヨリモドシ（スイベル）を回収具前端のすり鉢状の挿入部から内部に取込み、次いで回収糸を引っ張ることによって、ヨリモドシを該挿入部に設けたV字状係止溝に係入させて、ルアーを回収するものである。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】こうした二つのタイプの係合機構を有するルアー回収具には、次のような難点が指摘される。即ち、前者のタイプの回収具は全体をリング状とし構造が簡易である点で優れている。しかし、根掛かりしているルアーのサイズに適合したリング径をもつ回収具を使用する必要がある、従ってルアーのサイズに合わせて様々なサイズの回収具を複数用意しなければならず、使用者にとって不便である。

【0005】後者のタイプの回収具は、回収具に係合する対象を接続部材とするので、前者のタイプで指摘した難点を解消することができる点では好ましい。しかしながら、この回収具は部品点数が多く構造が複雑であるため、水中での操作性、又は耐用年数などの信頼性という点に着目すると、より簡易な構造とした回収具の必要性は依然高い。

【0006】このように指摘される従来のルアー回収具の難点を解消すべくなされたのが本発明である。即ち、本発明の目的は、部品点数の少ない簡易な構造としながらも確実にルアーを回収することができ、しかも回収対象とするルアーのサイズによる制約を受けることのないルアー回収具を提供することにある。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するために本発明のルアー回収具は、錘り部と、この錘部に回収糸を連結するための連結部と、同様に錘部に接続された筒状の捕獲部とを有し、前記捕獲部に挿通した釣糸に沿って滑り落ちて釣糸とルアーとの接続に介在する接続部材に到達し、回収糸を引っ張ることにより当該接続部材に係合しこの係合状態を利用してルアーを回収するようになっている。そして、前記捕獲部は接続部材よりも短く形成され、回収糸が引っ張られた際に錘部を介して働くモーメントにより捕獲部にひねりが生じ、このひねりにより接続部材に係合するようになっている。つまり、この捕獲部に働くひねりは、根掛かりして釣糸で引っ張られているルアーの中心軸（釣糸の緊線方向）と交差する方向へ接続部材を回転させるように作用する。

【0008】本発明の回収具はこのようひねりを利用するから、単純な筒構造だけで確実性の高い係合が可能である。つまり、構造を簡易にすることができる。また、ひねり係合であることから、捕獲部は接続部材よりもやや太径の筒であれば足りる。このため、ルアーの種類やサイズに左右されることがなく適合範囲が広い。

【0009】前記ルアー回収具は、捕獲部の先にルアーと当接することで接続部材を捕獲部の内部への接続部材の位置決め状態を助けるストッパーをさらに備えると好ましい。また、以上のルアー回収具の捕獲部をコイルで形成するとより好ましい。つまり、ストッパーの位置決め機能により、剛体である接続部材に対する捕獲部の係合を常に確保できるようにされる。また、捕獲部をコイルとすれば釣糸の挿通も容易であり、水中での釣糸の滑

り易さも向上する。

【0010】以上のルアー回収具の捕獲部の中心軸の向きは、錘部の鉛直軸に対し交差するようにするのが好適である。このように捕獲部を上辺とし、錘部を垂直辺とした逆し字状の構造を採用すれば、回収具が水中を滑り落ちるときに錘部の自重を最も自然に作用させることが可能となり到達距離も長くなる。特に、水深の深い位置でルアーが根掛かりした場合には、錘部の自重が作用する鉛直軸と捕獲部の中心軸とのなす角が鋭角であればその分、錘の自重を効果的に作用させることができ、また回収糸の引っ張りの程度が弱くても大きな係合力を発揮させることが可能である。さらに、このような回収具に形成する連結部は、錘部の下端に形成するとより好ましい。これによれば、捕獲部のひねりの変位量を大きくすることができ、係合の確実性が向上する。

【0011】さらに、本発明は、以上のルアー回収具について次のような構造とした回収具を提供する。即ち、このルアー回収具は、錘部に挿通させた針金の一端を連結部とし、他端をコイルにして捕獲部とした構造を採用する。従って、部品点数は僅かであり構造もシンプルであるが、上記のようなひねりによる確実な係合を発揮する。このことは、水中での操作性、到達距離、耐用年数などを向上させる上でも好ましい。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態の一例について説明する。本例のルアー回収具1は、図1に示すように、錘部2に挿通した針金3の上端に曲げ加工を施して捕獲部としてのコイル4を形成し、同様にその下端に曲げ加工を施して連結部5を形成したものである。

【0013】錘部2は、針金3を錘6に挿通して構成される。この錘6は、回収具1を水中で釣糸に沿って滑り落とし、ルアーに到達させるのに必要な重量をもつものであれば、その材質や形状、大きさその他については任意のものを選択的に用いることができる。

【0014】錘部2の針金3の先には、ヨリモドシ、スナップ等（接続部材）と係合するコイル4が筒状に形成されており、さらにその先にはストッパー7が形成されている。コイル4の中心軸は錘部2の鉛直軸に対して本例では略直角に交差するようになっている。このコイル4には、後述のようにして釣糸が挿通される（図2参照）。コイル4の巻き数は任意の回数としてよいが、ルアー側コイル4aと釣竿側コイル4bとのコイル間長さAは、ヨリモドシ等の長さよりも短くされている。この点、本例のコイル4は2回半巻きとし、長さAを7.5mm程度としてある。コイル4の内径Bは、ヨリモドシ等よりもやや太径とし、若干の間隙を設けた状態で該ヨリモドシ等をコイル内部に取り込むことができればよい。本例ではこれを5mm程度としてある。このコイル4によれば、3号〜6号程度のサイズのヨリモドシに対して効果的な係合を発揮することが可能である。

【0015】ストッパー7は、コイル4の先に設けられており、回収具1がルアーに到達したときにその先端8がルアーと当接するようになっている。これによりコイル4は、前記ヨリモドシ等との係合に好ましい場所へ位置決めが助けられるようにされている。

【0016】また、錘部2の下端には連結部5が形成されており、この連結部5には回収糸9が取り付けられる。

【0017】次に、以上のようなルアー回収具1の使用方法を説明する。まずコイル4に釣糸を挿通するには、ルアー側釣糸10a又は釣竿側釣糸10bを操作して行なうが、ここでは最も簡易な釣糸10の挿通法を説明する。図2(a)に示すように、釣糸10を錘6の背面に廻して空隙Xに落とし、釣竿側釣糸10bをストッパー7の背面に廻す。次いで、図2(b)で示すように、釣竿側釣糸10bを釣竿側コイル4bの背面に廻して空隙Yに落とす。そして、図2(c)のように、釣竿側釣糸10bを再度ストッパー7の背面に廻すと釣糸10がコイル4に挿通される。こうして釣糸10が挿通された回収具1は、図3のようにして、釣糸10に沿って水中Wを滑り落ち、ルアー11に送り込まれる。

【0018】回収具1が釣糸10とルアー11との接続に介在するヨリモドシ12に到達すると、ストッパー7の先端8がルアー11に当接し（図4）、その滑動は停止する（図5）。このときストッパー7により、コイル4は、およそルアー側コイル4aと釣竿側コイル4bとの間にヨリモドシ12のくびれ部12a、12bを挟むような位置関係に規制される。

【0019】この状態で回収糸9をX方向へ引っ張ると、コイル4はルアー側コイル4aの上部と前記くびれ部12aとの接触点を支点としてY方向へひねられる（図6）。すると、ストッパー7は、ルアー11の頭部との当接が外れて、ルアー11の側方Z方向へ逃げる。これによりコイル4は、ルアー11に対してさらにZ方向へひねられる（図7）。そしてさらに強く回収糸9を引っ張ると、図8のように前記接触点を支点としてさらにコイル4がひねられて回転する。次いで、ルアー側コイル4aの下部が、ヨリモドシ12の釣糸側くびれ部12bと接触し、ヨリモドシ12をさらに回転させる。こうしてY方向及びZ方向へひねられたコイル4はヨリモドシ13と係合する。そして、回収糸10を引く力が強ければ強いほど、錘部2の中心軸は釣糸10の緊線方向と平行に近くなる状態が形成され、これに伴ってコイル4とヨリモドシ12は釣糸10及びスナップ13と直角に近い鋭角をなすようにひねられる。これによりコイル4は、ヨリモドシ12に対して強い係合力を発揮して、ルアー11を根掛かりから解放する強い回収力を発揮することができる。ルアー11が根掛かりから解放された後は、そのまま回収糸10を手繰って引き寄せるか、又は図示せぬ釣竿のリールを巻いてルアー11を回収すれ

ばよい。

【0020】以上の実施形態では、コイル4の係合対象をヨリモドシ12としたが、必ずしもこれに限られるものではない。要は、回収糸9の引っ張りによりコイル4にひねりが生じ、このひねりによりコイル4の上部と下部とが接続部材と接触してひねり係合状態を形成できる剛体であれば係合対象となり得る。この意味では、前記実施形態で示したスナップ13を係合対象とすることもできる。またスナップ13をコイル4の上部と係合させ、ヨリモドシ12をコイル4の下部と係合させるようにしてもよい。なお、スナップ13に係合させる場合は、スナップ13とヨリモドシ12との双方が係合によりルアー11及び釣糸9に対して直角に近い鋭角をなすようにひねられることになる。

【0021】また、上記実施形態では、ヨリモドシ12をルアー側コイル4aのみで係合させる例を示したが、ヨリモドシ12のサイズによってはルアー側コイル4aの上部と釣糸側コイル4bの下部とで、或いは釣糸側コイル4bの上部と下部とで係合させることも可能である。

【0022】また、以上の実施形態では、コイル4として形成した捕獲部の例を示したが、ひねりを生じた捕獲部の上部及び下部で接続部材と係合できればよいので、管材を採用することもできる。

【0023】

【発明の効果】本発明によるルアー回収具は、捕獲部のひねりにより接続部材と係合するようになっていたので、回収糸の引っ張りにより強固に接続部材と係合し、且つ確実にルアーを回収することが可能である。従って、ルアーの種類やサイズに左右されることがなく、しかもひねりを得るためには簡単な筒構造で足り、構造を簡易に

することができる。よって、コスト的にも有利であり、且つ耐用年数が長く信頼性も高い。

【図面の簡単な説明】

【図1】 分図(a)は本発明のルアー回収具の側面図、分図(b)はそのルアー側コイルからみた正面図。

【図2】 コイルに釣糸を挿通する手順を示す説明図。

【図3】 ルアー回収具をルアーへ滑り落とす様子を示す図。

【図4】 ストッパーがルアーと当接する状態を示す図。

【図5】 ストッパーがルアーと当接してルアー回収具の滑動が停止した状態を示す図。

【図6】 ルアー側コイルとヨリモドシとの接触点を支点にしてコイルがひねられる状態を示す図。

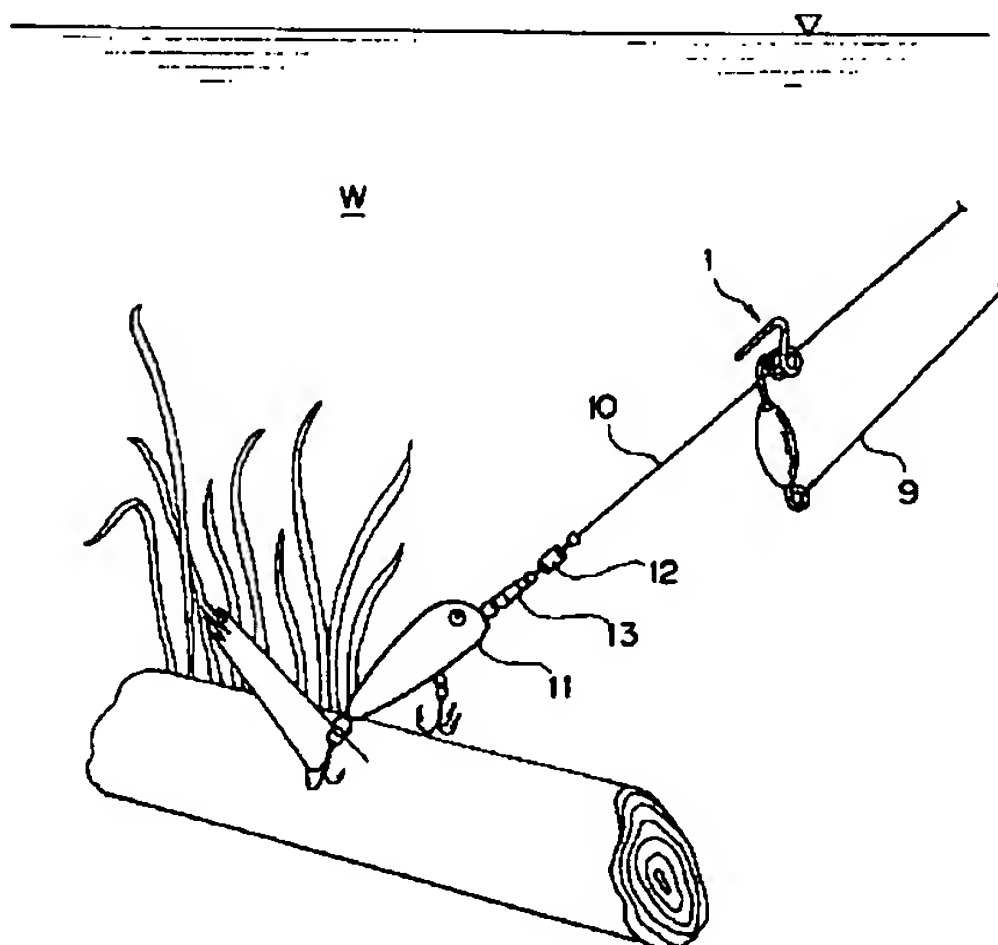
【図7】 ルアー側コイルとヨリモドシとの接触点を支点にしてコイルがひねられる状態を示す図。

【図8】 コイルとヨリモドシとが係合する状態を示す図。

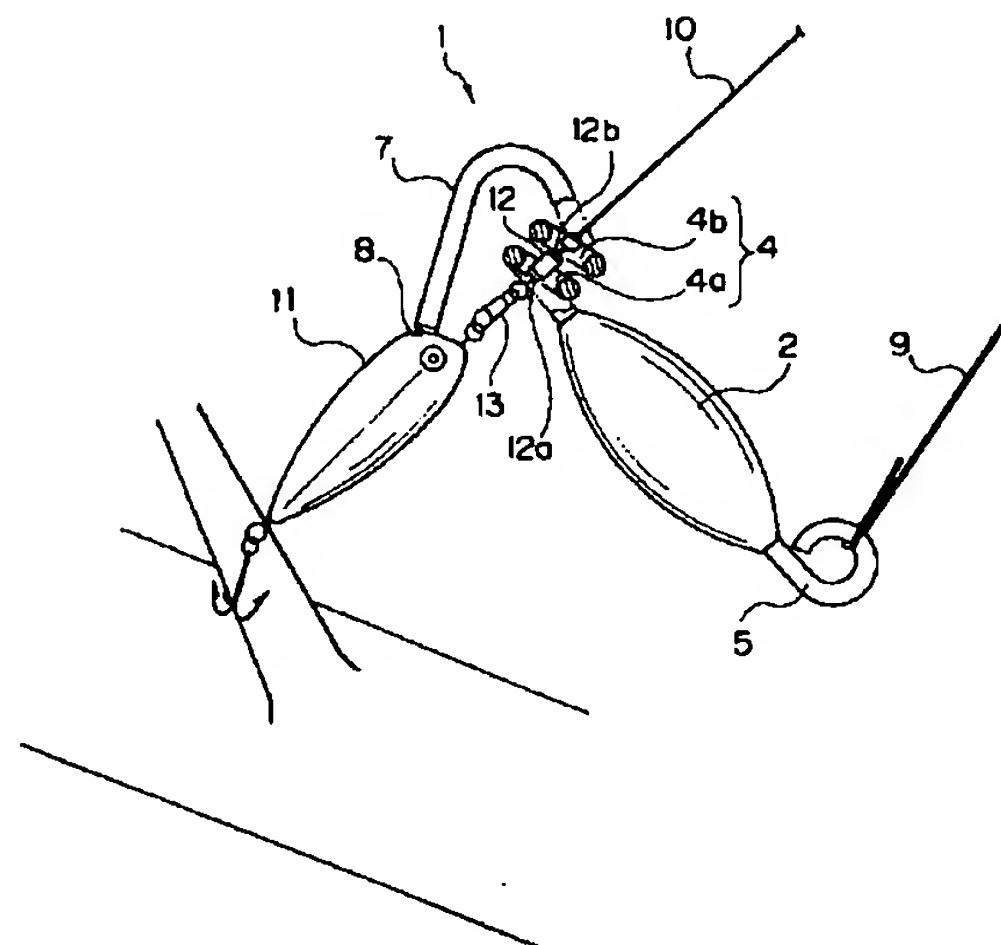
【符号の説明】

- |    |             |
|----|-------------|
| 1  | ルアー回収具      |
| 2  | 錘部          |
| 3  | 針金          |
| 4  | コイル         |
| 5  | 連結部         |
| 6  | 錘           |
| 7  | ストッパー       |
| 9  | 回収糸         |
| 10 | 釣糸          |
| 11 | ルアー         |
| 12 | ヨリモドシ(接続部材) |
| 13 | スナップ(接続部材)  |

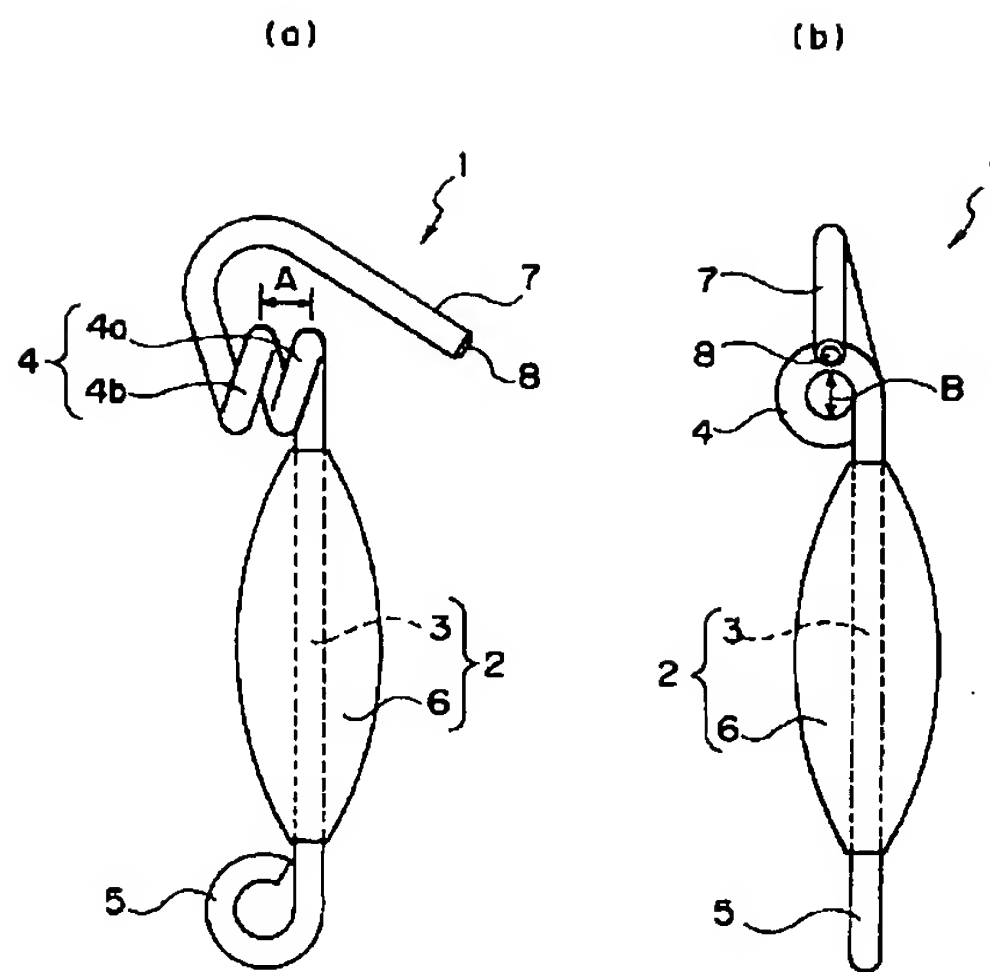
【図3】



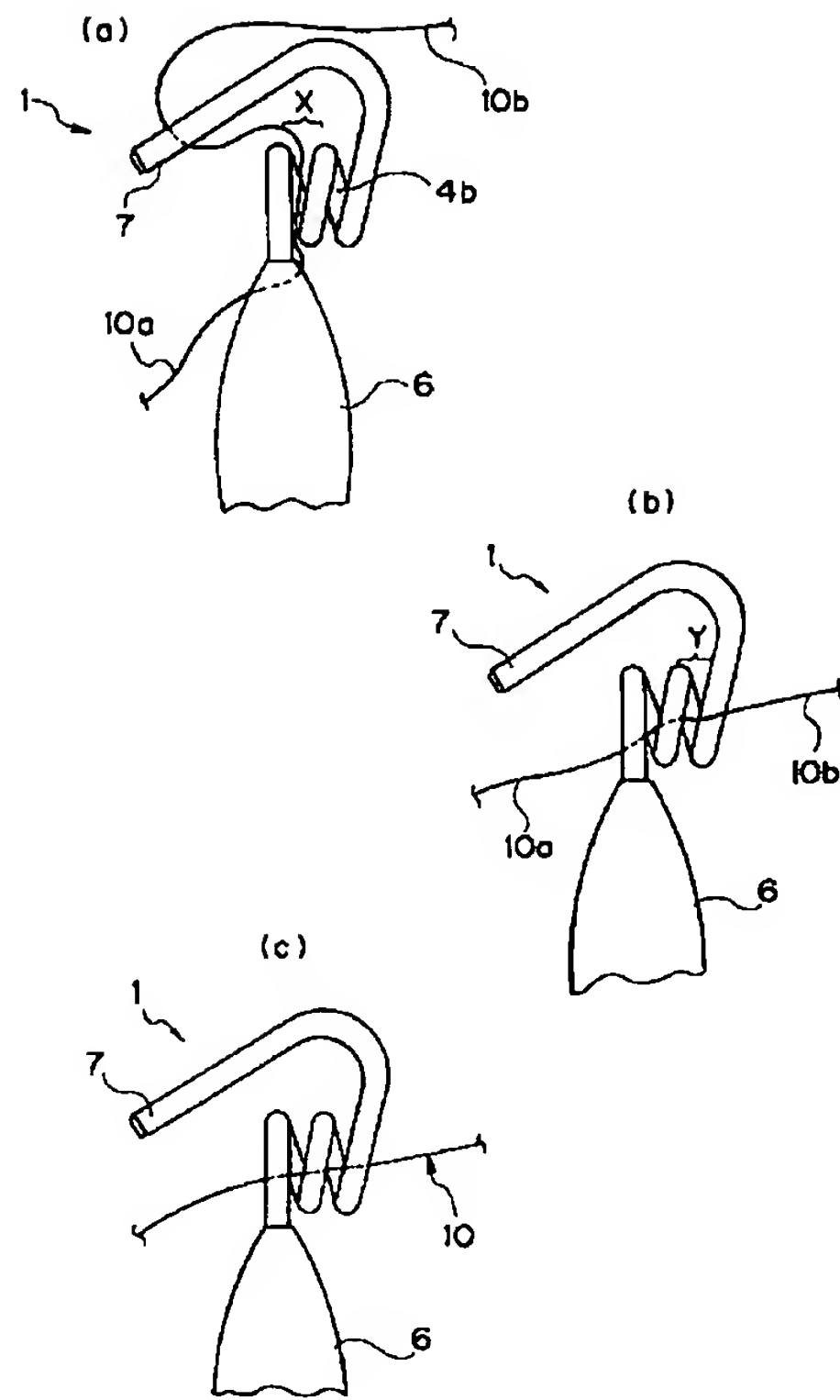
【図4】



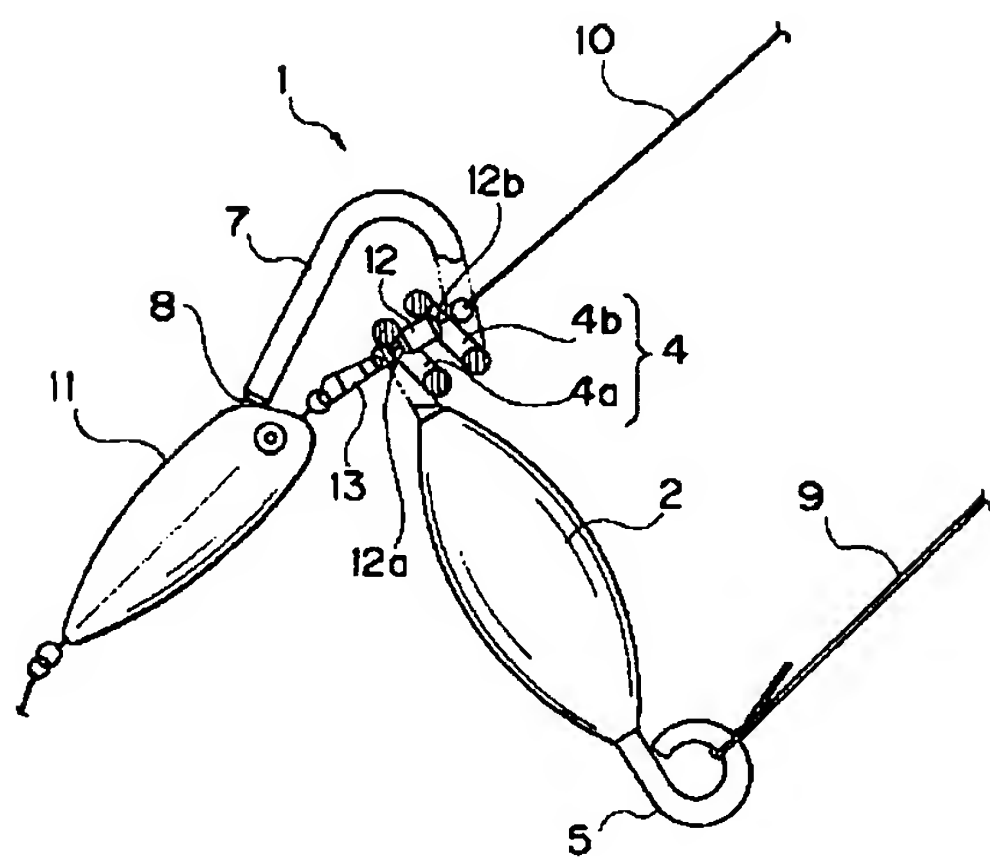
【図1】



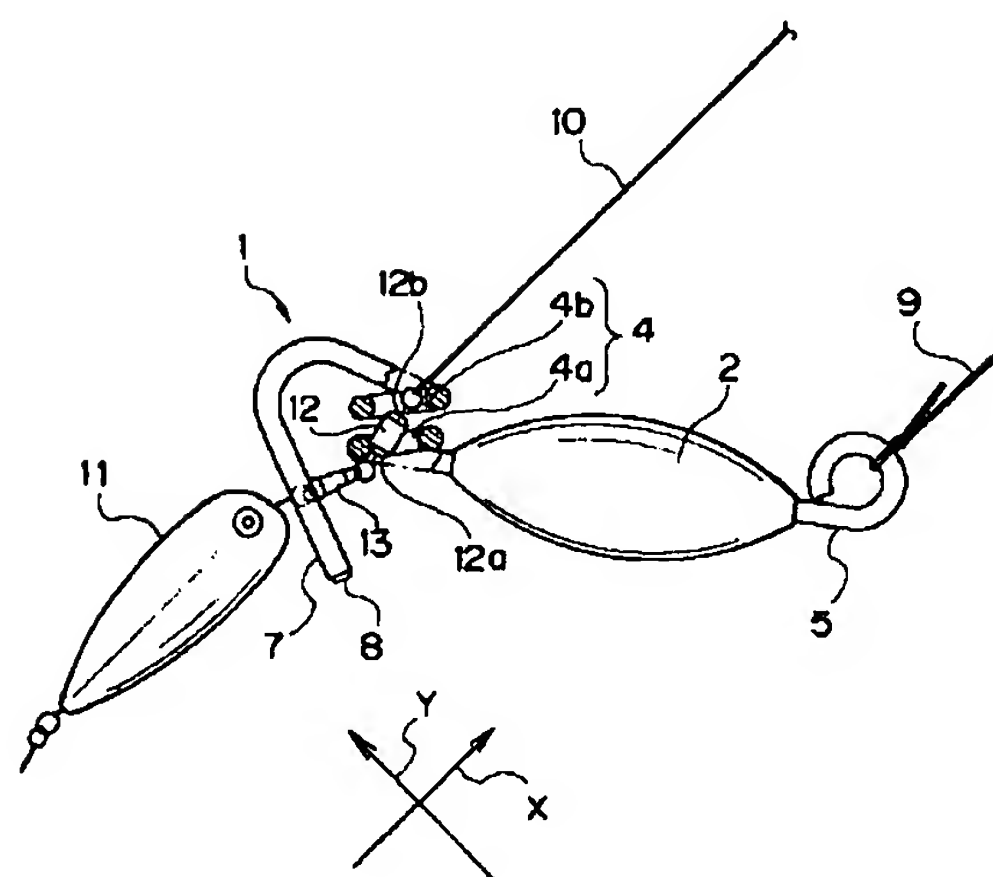
【図2】



【図5】

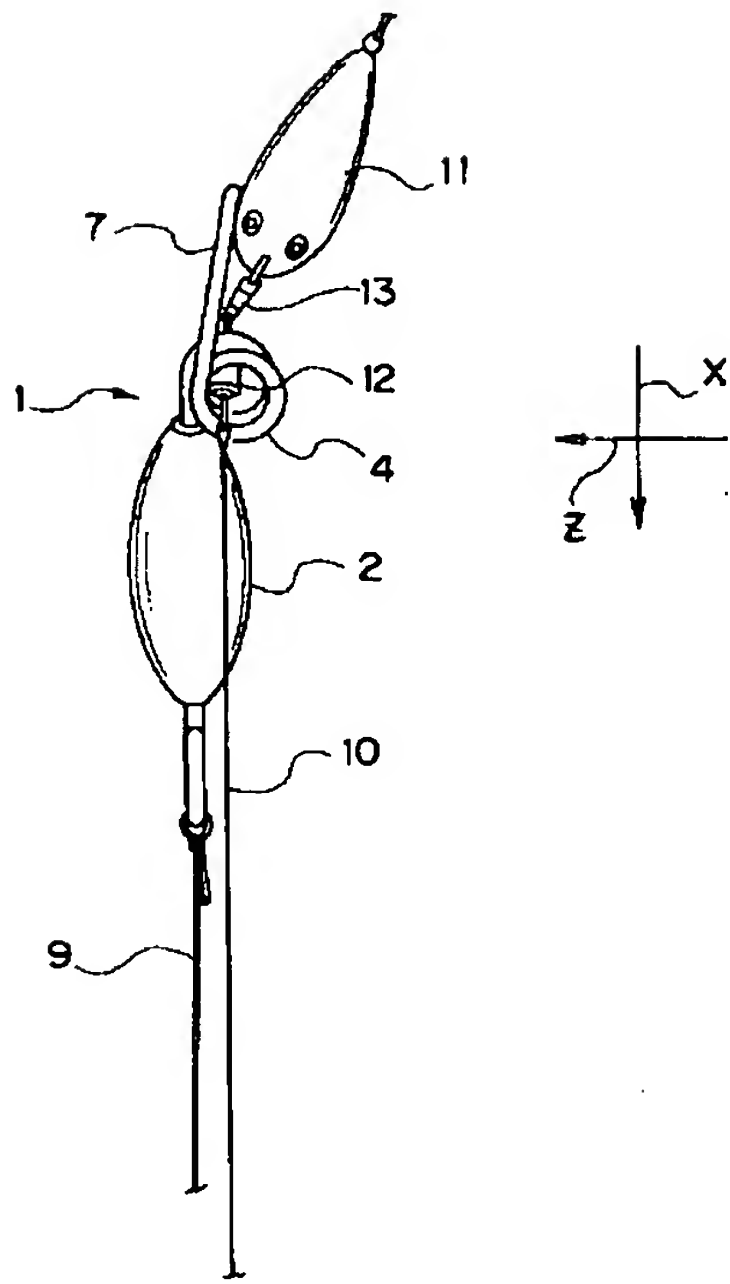


【図6】

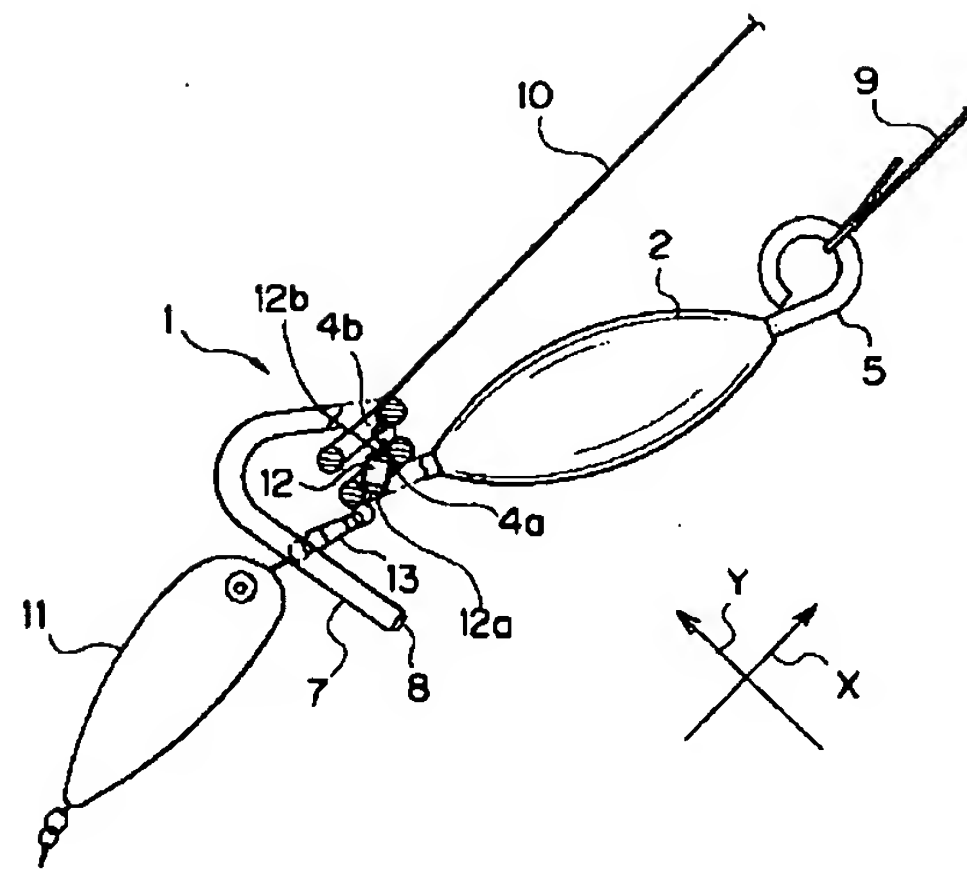




【図7】



【図8】



PAT-NO: JP411018660A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11018660 A  
TITLE: TOOL FOR RECOVERING LURE  
PUBN-DATE: January 26, 1999

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
ONEDA, KUNIYUKI

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME COUNTRY  
KK SAIDA TEKKOSHO N/A

APPL-NO: JP09179548  
APPL-DATE: July 4, 1997

INT-CL (IPC): **A01K097/24**

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the subject recovery tool capable of surely recovering a lure in spite of a simple structure and not depending on the size of the lure of recovery target by twisting a catching member with a moment acting on a weight on the pulling of a recovery line and engaging the catching member with a connection member due to the twist.

SOLUTION: This lure-recovering tool 1 has a weight 2, a connection member 5 for connecting the weight 2 to a recovery line 9, and a cylindrical catching member 4 similarly connected to the weight 2. The lure-recovering tool 1 is used by sliding down the catching member 4 to a connection member 12 placed between a fishing line 10 and the lure 11 along a fishing line 10 inserted into

the catching member 4, pulling the recovery line 9 to engage the catching member 4 with the connection member 12, etc., and subsequently utilizing the engaging state to recover the lure. Therein, the catching member 4 is formed in a shorter length than that of the connection member 12, etc. The catching member 4 is twisted with a moment acting on the weight 2 on the pulling of the recovery line 9, and the connection member 12, etc., are engaged with the catching member due to the twist.

COPYRIGHT: (C) 1999, JPO